

平成30年3月23日
中部圏広域地方計画協議会 幹事会**「ものづくり中部」さらなる発展に向けた取組みが推進
～「中部圏広域地方計画」の推進について 平成29年度の取組み～**

概要： 中部圏広域地方計画においては、計画の実効性を高め、着実な推進を図るため、毎年度、10のリーディングプロジェクトの進捗状況をモニタリングすることとしています。

今般、計画策定後の2年目となる「平成29年度の取組み」をとりまとめましたのでお知らせします。

中部圏広域地方計画（平成28年3月29日国土交通大臣決定）は、ものづくりの進化、スーパー・メガリージョンのセンターを担う地域として役割を担い、差し迫る人口減少・高齢化に適応し、安全・安心でリニア効果を最大限発揮し、引き続き我が国の成長エンジンの一翼を担っていくことを目的に、中部圏広域地方計画協議会における議論を踏まえて決定したものです。

<平成29年度の取組みの例>**・方針1「世界最強・最先端のものづくりの進化」**

戦略産業強化に資する、自動運転の実証実験、航空機産業への人材育成、研究開発等の推進、物流等の効率化に資する、東海環状自動車道一部開通、四日市港臨港道路霞4号線開通 等

・方針2「スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引」

リニア時代に資する、ターミナル駅・中間駅周辺のリニアを活かしたまちづくり検討
訪日外国人等の観光支援に資する、手ぶら観光、共通ICカードの実証実験 等

・方針3「地域の個性と対流による地方創生」

地場産品を活用など地域産業等の個性・魅力創出に資する、農林水産業の6次産業化や人材育成、販路拡大等の取り組み、地域の暮らしに資する、「道の駅」を拠点とした自動運転の実証実験 等

・方針4「安全・安心で環境と共生した中部圏形成」

南海トラフ地震の備えに資する、中部圏地震防災基本戦略のフォローアップ、企業BCP支援 等
自然環境の保全と共生に資する、国立公園の保全活動、建設業の生産性向上に資する、i-Construction
中部ブロック推進本部によるICT活用工事の導入普及やインフラの適切管理が推進 等

・方針5「人材育成と共助社会の形成」

地域づくりに資する、UIJターン支援、地域の担い手育成、女性の躍動などの取組 等

資料：添付資料：中部圏広域地方計画 平成29年度的主要な取組みについて（本編からの抜粋）
なお、本編、概要版は、下記ホームページに掲載していますのでご覧ください。

○中部地方整備局ホームページ 「■中部圏広域地方計画の推進 ○計画の進捗管理」

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kokudokeisei/index.htm>

配布先：中部地方整備局記者クラブ、東海交通研究会、名古屋港記者クラブ、長野県庁内会見場
岐阜県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、三重県政記者クラブ・三重第二県政記者クラブ、
静岡市政（経済）記者会、浜松市政記者クラブ、名古屋市政記者クラブ

【問合せ先】

中部圏広域地方計画協議会 幹事会 事務局（中部圏広域地方計画推進室）

国土交通省中部地方整備局企画部 広域計画課長 森山、建設専門官 折戸

TEL052-953-8129

■中部圏広域地方計画 平成29年度の主な取組みについて(本編からの抜粋)

添付資料

基本方針	リーディングプロジェクト	目的	平成29年度の主な取組み
【方針1】 世界最強・最先端のものづくりの進化	1 ものづくり中部・世界最強強化プロジェクト	1-1 ものづくり中枢圏形成 このプロジェクトは、中部のものづくりが引き続き競争力を高め、我が国経済を力強く牽引していくため、世界最強、最先端のものづくりへの進化を図り、国内外から、ヒト、モノ、カネ、情報が集まり対流する熱源となり、世界最強のものづくり中枢圏に発展させていくことを目的としている。	・世界最強のものづくり中枢圏への発展に向けた取組みとして、戦略産業の強化、新産業の創出・育成、次世代自動車関連産業の育成・強化、アジアNo.1航空宇宙産業クラスターの形成、ヘルスケア産業の育成・強化や、産学官によるオープンイノベーションの促進、ものづくり産業を担う人材育成等が進められた。 ・特に、次世代自動車のキーテクノロジーといわれる自動運転について、全国で初めての一般公道における遠隔型自動運転の実証実験を実施、航空機産業の試験環境の充実、医療産業の企業間連携による製品開発など、ものづくり中枢圏形成の取組が推進された。 ・また、ものづくりを支える基盤強化では、物流等の効率化に向け、四日市港から伊勢湾岸自動車道への臨港道路霞4号幹線の開通、東海環状自動車道の一部開通、総合的な治水・安定的な水供給に向け新丸山ダムや設楽ダムの転流工工事が推進された。
		1-2 【中部・北陸広域連携】環太平洋・環日本海に拓く一大産業拠点形成 このプロジェクトは、中部圏、北陸圏それぞれの産業が有する強みを活かした連携・補完を推進することで、環太平洋・環日本海に跨がる新たな産業拠点の形成・発展を図るとともに、戦略的な広域物流ネットワーク構築を推進し、国際競争力の向上を図ることを目的としている。	・環太平洋・環日本海に跨がる産業拠点形成に向けた取組みとして、コンポジットハイウェイ構想の推進、中部国際空港を経由する国際空港貨物輸送の拡大等の取組みが進められた。 ・特に「コンポジットハイウェイコンベンション2017」でのビジネスマッチング等の開催、中部国際空港を利用した食品輸出の実証実験等の取組みが進められた。
【方針2】 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引	2 リニア効果最大化対流促進プロジェクト	このプロジェクトは、リニア中央新幹線開業によるリニア効果を広域に行き渡らせ、中部圏の新たな価値を創造するとともに、「陸・海・空」高速交通ネットワークの早期整備・活用を通じた広域連携、対流促進を図り、中部圏のポテンシャルを一層高めていくことを目的としている。	・リニア中央新幹線については、品川駅～名古屋駅間の2027年開業に向け着工した工事が推進された。 ・リニア効果を広域に波及させ広域連携、対流促進に向けた取組みとして、名古屋駅を核とした都市圏づくり、リニア長野県・岐阜県駅を核としたまちづくり等の取組みが進められた。 ・特に名古屋駅のスーパーターミナル化に向け、名古屋駅周辺交通基盤整備方針策定(予定)、周辺土地区画整理事業の完了等が推進された。また、対流圏域においては、リニアバレー構想の実現に向けたまちづくり及び企業誘致に向けた検討・設計が推進されるとともに、東名高速道路守山スマートICの開通及び三遠南信自動車道飯橋道路の一部区間が開通されるなどネットワーク強化の取組みが推進された。
	3 新たな観光交流おもてなしプロジェクト	3-1 広域観光交流圏の形成 このプロジェクトは、中部圏から北陸圏に分布する多様な地域資源の魅力高め、ストーリー性やテーマ性を持った地域資源のネットワーク化を図るとともに、高速交通ネットワークを活かした多様な広域観光交流圏を形成し、国内外の様々な観光需要を取り込む対流促進型国土を構築することを目的としている。 3-2 【中部・北陸広域連携】昇龍道プロジェクトの推進 このプロジェクトは、中部・北陸9県における「昇龍道」の一層の推進を図るため、広域観光周遊ルート形成や外国人旅行者の受入環境整備、一貫した海外プロモーションなどを継続し、訪日外国人旅行者の増加に向けた「昇龍道プロジェクト」を推進することを目的としている。	・国内外の様々な観光需要促進に向けた取組として、多彩なコンテンツの開発・活用や地域資源のテーマやストーリー化による交流促進等の取組みが進められた。 ・特に、あいち山車文化、関ヶ原古戦場、熊野古道の保全ウォーク、アルプス登山・トレッキングなどの地域固有の歴史・文化・活用等の魅力を情報発信・プロモートする取り組み、清水港におけるクルーズ船の受入環境の整備の取組み等が進められた。 ・「昇龍道プロジェクト」を推進する取組みとして、訪日外国人旅行者の受入環境水準向上、一貫した海外プロモーション等の取組みが進められ、昇龍道9県の外国人延べ宿泊者数は、過去最高の806万人泊、5年連続で過去最高を更新している。(H29年年間値速報値) ・特に、観光旅行者の観点から、手ぶら観光や共通ICカードの実証実験や分かりやすい標識、「道の駅」や観光案内所、観光施設等での無料公衆無線LANの整備・普及などの取組みが推進された。
【方針3】 地域の個性と対流による地方創生	4 中部圏創生暮らしやすさ実感プロジェクト	このプロジェクトは、人口減少・少子高齢化が進む中、それぞれの地域の実情や特性に応じた持続可能な地域づくりを進めるとともに、地域に活力を生み、就業が安定的に確保され、豊かさを実感できる社会を構築、働き住み続けたい中部圏を創生することを目的としている。	・豊かさを実感でき働き住み続けたい社会の構築に向けた取組みとして、小さな拠点、水辺空間を活用したまちづくりや地域の歴史、文化を醸し出すまちなみや景観を形成、農林水産業、地域産業の活性化等の取組みが進められた。 ・特に、「道の駅」を拠点とした自動運転の実証実験の開始、「みなとオアシス」を活用した取組みや水辺空間を活用した交流の取組み、地域産業等のブランド化による販路拡大等の取組、農林水産業の6次産業化に向けた人材育成、販路拡大等の取組みが進められた。
	5 快適・安全安心な生活環境実現プロジェクト	このプロジェクトは、ICTや新技術等を活用した環境負荷の少ない次世代型交通システムを構築するとともに、誰もが快適で安全・安心な生活をおくることができる生活環境、社会の実現を目指すことを目的としている。	・誰もが快適で安全安心な生活を送ることができる生活環境、社会の実現に向けた取組みとして、安全安心な生活環境、社会の構築に向け効果効率的な事故対策や安全で快適な自転車利用環境の整備等が進められた。 ・特に、ETC2.0プローブデータ等ビッグデータを活用した交通安全対策の推進や高齢者の交通事故抑制に向けた安全講座等の実施、安全で快適な自転車走行空間の整備、産学官民連携によるサイバー犯罪対策等の取組みが進められた。
【方針4】 安全・安心で環境と共生した中部圏形成	6 中部・北陸圏強靱化プロジェクト	6-1 南海トラフ地震など大規模自然災害への備え このプロジェクトは、切迫する南海トラフ地震や頻発・激甚化する自然災害に備え、強靱な国土を構築するとともに、発災した場合でも、人的・物的被害を最小化し、被災後の迅速な復旧・復興を可能とする体制を構築することを目的としている。	・南海トラフ地震への備えに向けた取組みとして、南海トラフ地震対策中部圏戦略会議、頻発・激甚化する自然災害への対応、地域防災力強化、広域的な連携による支援体制の構築、ものづくり産業の防災強化等の取組みが進められた。 ・特に、「中部ブロック南海トラフ地震防災対策推進連絡会」における学識者との意見交換等、防災・減災対策としてタイムライン、企業BCPの策定支援等の取組みが進められた。 ・また、災害発生時の活動拠点の整備、緊急輸送道路等の重要な橋梁の耐震化対策等、強靱な国土構築への取組みが進められた。
		6-2 【中部・北陸広域連携】太平洋・日本海2面活用型国土構築 このプロジェクトは、切迫する南海トラフ地震など大規模災害に備えて、中部圏と北陸圏が一体となり、我が国の社会経済活動に係る被害を最小限に留めることができる、太平洋と日本海の2面を活用した強靱な国土を構築することを目的としている。	・太平洋と日本海の2面を活用した強靱な国土構築に向けた取組みとして、中部・北陸両圏域の相互応援体制や基盤の強化等の取組みが進められた。 ・特に大規模災害時の廃棄物対策に関する連携手順の実効性を確保する訓練等、中部、北陸の企業・行政機関による南海トラフ地震に対応した代替輸送の図上訓練等の取組みが進められた。
	7 環境共生・国土保全プロジェクト	このプロジェクトは、生物多様性の将来にわたる維持、保全、環境負荷の少ない低炭素型社会の実現、適切な国土保全により、環境と共生し国土が適切に保全された持続可能な中部圏を形成することを目的としている。	・環境と共生し国土が適切に管理された持続可能な中部圏の形成に向けた取組みとして、中部・北陸圏に跨がる山岳地帯における環境保全、森林から海域に至る多様な自然環境の保全の取組み、低炭素社会の推進のための取組み、国土保全の取組み等が進められた。 ・特に、白山国立公園における生態系維持・回復モニタリングの実施等や伊勢湾再生行動計画(第二期)の策定等の自然環境の形成に関する取組み、EV・PHV・FCV普及に向けた活動、天竜川、大井川における総合土砂管理計画策定に向けた検討や農用地等の保全活動等の取組みが進められた。
8 インフラ戦略的維持管理プロジェクト	このプロジェクトは、国民生活や社会経済活動を支えるインフラの機能を確実に維持しストック効果を発揮し続けるとともに、インフラが適切に管理された安全・安心な中部圏を構築することを目的としている。	・インフラの適切な管理による安全・安心な地域の構築に向けた取組みとして、インフラの戦略的なメンテナンス、地域の守り手としての建設業の強化、担い手確保等の取組みが進められた。 ・特に、中部5県の各県に設置されている道路メンテナンス会議などを活用して、インフラメンテナンスサイクルの推進、インフラ長寿命化計画等の策定により長寿命化対策等が進められた。 ・また、建設業における生産性の向上に向け、i-Construction中部ブロック推進本部によるICT活用工事の導入・普及の推進や建設女性技術者による現場見学会・意見交換会の実施等の取組みが進められた。	
【方針5】 人材育成と共助社会の形成	9 すべての人が輝く「ひとづくり」プロジェクト	このプロジェクトは、若者や女性、高齢者、障がい者、外国人など地域で生活する一人一人が夢や希望を持って安心して働き、暮らし続けることができ、すべての人々が輝く社会を実現することを目的としている。	・すべての人が社会参画し輝く社会の実現に向けた取組みとして、地域に愛着を持ち定着する人材の育成確保、ワーク・ライフ・バランスの推進、障がい者の雇用拡大や職場定着の支援等の取組みが進められた。 ・特に、UIターンを支援する情報発信、産官学の連携、子育て支援のための情報発信、障がい者職場定着のための情報発信、セミナーの開催等の取組みが進められた。
	10 新たな「つながり」社会構築プロジェクト	このプロジェクトは、中部圏の地域と人がつながりの強さを活かした、住民や地域社会が主体的に支え合う共助社会を構築するとともに、地域と人がつながる、誰もが愛着を持ち働き住み続けたい中部圏を構築することを目的としている。	・地域と人がつながり、愛着を持ち働き住み続ける社会の形成に向けた取組みとして、中間支援組織による共助活動、地域づくりの担い手やリーダーとなる人材の育成・確保、空き家などの適切な管理、医療・介護・福祉環境構築に向けた取組み等が進められた。 ・特に、訪問医療・住宅医療の環境整備、地域づくりの担い手育成のため研修、学校等との交流会等の開催、学生ボランティア活動拠点の設置等の取組みが進められた。